

Title	Two distinct subgroups of Group B Sox genes for transcriptional activators and repressors : their expression during embryonic organogenesis of the chicken
Author(s)	内川, 昌則
Citation	大阪大学, 2000, 博士論文
Version Type	
URL	https://hdl.handle.net/11094/41787
rights	
Note	著者からインターネット公開の許諾が得られていないため、論文の要旨のみを公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、 https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed 大阪大学の博士論文について ご参照ください 。

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

氏 名	内 川 昌 則
博士の専攻分野の名称	博 士 (医 学)
学 位 記 番 号	第 1 5 2 4 3 号
学 位 授 与 年 月 日	平成12年 3 月 24 日
学 位 授 与 の 要 件	学位規則第4条第1項該当 医学系研究科生理系専攻
学 位 論 文 名	Two distinct subgroups of Group B Sox genes for transcriptional activators and repressors : their expression during embryonic organogenesis of the chicken (グループ B Sox 遺伝子における転写活性化因子と転写抑制因子をコードする異なった2つのサブグループ：ニワトリ胚器官形成期におけるそれらの発現)
論 文 審 査 委 員	(主査) 教 授 近藤 寿人 (副査) 教 授 岡野 栄之 教 授 濱田 博司

論 文 内 容 の 要 旨

【目的】

SOX 因子は、性決定因子 Sry の DNA 結合ドメインである HMG ドメインと相同性を示す転写制御因子であり、哺乳類では少なくとも20数種のメンバーからなるファミリーを構成している。HMG ドメインの比較から SOX ファミリーは7つのグループに分類される。グループ内では HMG ドメインは90%以上の高い同一性を示すが、グループ間では低い。更に全長のアミノ酸配列が決定された SOX 因子において、グループ内では全長にわたり保存されており、同様な制御機能を持つことが予想される。現在までに解析された SOX 因子は、すべて転写活性化ドメインを持つ。しかしその標的遺伝子は一部の SOX 因子で少数知られているだけで、そのため SOX ファミリーの生体内における実際の機能は明らかでない。

グループBに属する Sox 遺伝子 Sox1、2、3は、 δ -クリスタリン遺伝子の水晶体特異的な発現を制御することが明らかになっている。そこで今回、グループBに属する Sox 遺伝子に着目した。最初にグループBに属する Sox 遺伝子の単離を行った結果、新たに Sox14、21を見いだした。そこで Sox14、21を含めたグループB に属する全ての Sox 遺伝子の一次構造及びその機能を解析し、更に *in situ* ハイブリダイゼーション法を用い、ニワトリ胚器官形成期における発現を調べた。

【方法ならびに成績】

(1) グループBに属するニワトリ Sox14、21の単離

ゲノムスクリーニングを行った結果、グループBに属する Sox1、2、3と高い相同性を示す HMG ボックスを持つ、2つのニワトリ Sox 遺伝子を同定した。塩基配列の比較から、既にマウスで HMG ボックスのみ報告されていた Sox14と一つは一致し、もう一つは最近報告されたニワトリ Sox21であった。全長のアミノ酸配列を比較したところ、SOX14、21は全長にわたり保存されていたが、SOX 1、2、3とは HMG ドメイン及びそのすぐC末側の一部（グループBホモロジー）を除き、保存された領域は存在しなかった。このことからグループB は、Sox1、2、3のサブグループB1と Sox14、21のサブグループB2の2つに分けられることが示された。

(2) Sox14、21の転写抑制能

SOX14、21のC末と GAL 4 DNA 結合ドメインの融合蛋白質を用いてその転写活性を調べたところ、TK プロモーターに対し転写抑制能を示した。実際、水晶体細胞において、SOX 1あるいはSOX 2による δ -クリスタリンエン

ハンサーの活性化を、SOX14、21は阻害した。SOX21のC末を削ると、この阻害は失われた。このことから SOX14、21は、SOX ファミリーにおいて初めて見いだされた転写抑制因子であり、その活性にはC末側が関与していることが明らかになった。

(3) グループB Sox 遺伝子のニワトリ胚器官形成期における発現

胚発生過程におけるグループB全ての Sox 遺伝子の発現を比較したところ、興味深い発現の重複が観察され、器官形成において機能的に相互作用することを示唆するものであった。重複して発現される Sox 遺伝子の組み合わせは、おおよそ以下のように分類できる。1) 活性化 SOX 因子をコードするサブグループB1においては、中枢神経系や末梢神経系、感覚器原基などで、Sox1、3の発現領域は Sox2の発現領域にほぼ含まれた。2) 抑制化 SOX 因子をコードするサブグループB2では、Sox14、21が脊髄の介在神経など、中枢神経系のごく限られた領域で共通に発現された。またその発現は、Sox21から Sox14に切り替わるように観察された。3) 2つのサブグループ間では、中脳視蓋や脊髄、内耳や消化管、鰓弓など、多くの組織で Sox2と Sox21に重複した発現が観察された。4) その他、Sox3の始原生殖細胞、Sox14の肢芽の外胚葉性頂堤など、それぞれの Sox 遺伝子に固有の発現も観察された。

【総括】

この研究でグループBに属する新しい Sox 遺伝子を単離し、その Sox14、21が Sox 遺伝子では初めての転写抑制因子をコードすることを明らかにした。このことからグループBは転写活性化因子であるサブグループB1と転写抑制因子であるサブグループB2の2つに分けられることが示された。ニワトリ胚器官形成期の発現の比較からも2つのサブグループが機能的に相互作用することが示唆された。つまり2つのサブグループB1、B2の Sox 遺伝子が重複して発現された組織においては、その標的遺伝子は、活性化 SOX 因子と抑制化 SOX 因子のバランスによって制御されている可能性がある。このような制御が、時間的、空間的に高度に調整された細胞増殖や細胞分化を必要とする器官形成の基礎をなしていると考えられる。

論文審査の結果の要旨

SOX 転写制御因子は、最近、細胞分化のスイッチの担い手として注目を集めている。申請者は、中枢神経系や水晶体分化に重要な役割を果たしているグループB Sox 遺伝子群の網羅的単離と解析を行った。その結果、即知の Sox 1、2、3とは異なった新しい Sox14、21を見出した。更に、SOX1、2、3が転写活性化因子であるのに対して、SOX14、21は転写抑制因子であることを示した。胚発生期の組織では、転写活性化 SOX と転写抑制 SOX とが重複して発現される場合が多く、細胞分化が活性化 SOX と抑制 SOX のバランスによって制御されている可能性が示唆された。細胞分化に関わる転写制御を理解する上で、本研究の貢献は大きく、従って、本研究は博士（医学）の学位に値するものと考えられる。